

金の道「相川街道」③

相川金銀山の最盛期は、慶長から寛永初期にかけてだと言われています。江戸時代の始め頃、一番多くの金銀がとれたようです。

その頃は、1箱10貫目(およそ37.5kg)の金銀箱を、1回に50〜100箱くらい運んだそうです。これを年数回行ったといえますから、街道筋の人々は、その度に送り迎えに苦労したものだと思われまます。

その後、金銀山は産出量が減り、宝暦4(1754)年からは年1回が通例となりました。相川から江戸までの産金輸送の道筋を記録した「江戸道中日記」を簡単に紹介します。享保7(1722)年に須田六右衛門富守が宰領した記録です。

4月23日朝、灰吹銀702貫余、箱数70箱を運ぶのに、馬37頭用意した。(このうち2頭は奉行が使ったので、馬1頭に2箱の銀箱が割り当てられたことになる。)朝五ツ(午前8時)前に、佐渡奉行所を出発した。昼は大須村(真野地区)名主伊右衛門宅でとり、小木には四ツ(午後10時)到着。番所衆、問屋衆、町役配下の者ら数十人が不寝番で厳重な警戒をした。

4月24日朝六ツ半(7時)に、小木湊出船。途中から迎えを受けて、八ツ半(3時)出雲崎着船。

宿へ入つてすぐに、佐渡奉行所への報告を書き、板橋宿間での各宿場へ先触れを出した。翌日から江戸へ向かい、5月6日に江戸城御金蔵に到着した。

14日間の旅でした。

柴田収蔵の相川道



柴田収蔵肖像画

幕末に、宿根木出身でありながら幕府の絵図調べ出役という役人に採用された「柴田収蔵」が歩いた相川道を紹介したいと思います。天保13(1842)年の記録です。収蔵は、村名主の父の名代で、毎月相川へ出府しています。もちろん公の用はありましたが、それ以上に、地方御役所絵図師の石井夏海・文海親子に会って絵図の書き方を習ったり、諸国の情報を聞いたりにすることに興味があつたようです。茶屋で休むたびに酒を飲んでいきます。途中で知り合つた船頭衆と一緒に、新町から沢根まで船で渡つたこともあります。金銀輸送とは違い、気ままに旅した様子がうかがえます。

収蔵はこの1年に12回、延べで96日も相川に関わつていました。道が運ぶモノの多様さは、実に興味深いです。(完)

◆教育委員会社会教育課

佐渡学センター(佐渡博物館内)

☎52-2447

生活情報 さど

SF商法(催眠商法)に気をつけよう!

日用品が無料でもらえると聞いて行ってみたいら...

催眠商法は、「新製品普及会」という業者が初めて行つたため、その頭文字をとってSF商法とも呼ばれています。

貸し店舗や公民館等で商品説明会や安売りセールを名目に人を集め、欲しい人に手を上げさせて、日用品や食料品を無料で配り、「もらわないと損だ」という心理にさせるとともに、閉め切つた会場内を熱狂的な雰囲気盛り上げ、その後、高額な商品を買わせようとします。

トラブルの多い商品

健康食品、家庭用医療器具(温熱治療器など)、ふとん類等

【事例】

同居している母が、最近空き店舗に入つたお店で、チタン製のネックレスとブレスレットのセットを購入した。お店に行くと、卵やしょうゆ、パンなどが無料でもらえたり、100円で購入できたりして、母も

それしか買わないと言っていたので、それくらいならいいかと思つていましたが、その後、そのお店の会員になつて高額な商品を強引に買わされた。

【対処法】

- ・あやしげな会場へは誘われても近づかない。
- ・いろいろな商品を無料でもらった後だから何か買わなければいけないということとは絶対ありません。雰囲気に惑わされないようにしましょう。
- ・本場に必要なものかをよく考えてから契約しましょう。

心配な時は、早めに消費生活センターにご相談ください。

お問い合わせ

佐渡市立消費生活センター
(佐和田行政サービスセンター内)
(平日) 午前9時〜午後4時
☎57-8143

覚えてください

消費者ホットライン

☎1888(嫌やー泣き寝入り)